『ぷはああぁ!! うんめえぇ〜〜!!』
舌なめずりしながら、
『さあ、オ●コでもおじさんのコレ食べさせてあげるねえ!!』
とミサの涎まみれの尻を掴んで引き寄せる。
『やっ いや!!』『もういや!! おじさん!!』
にゅる
さあ、やらしてもらうぞぉ
嫌がり狼狽えるミサに
『何言ってんだ!! まだ一回も入れてないだろ!!』と叱りつけ、
股間にビンビンの肉棒をあてがっていく・・・
ミサは怖いのだ。
極太肉棒を入れられる痛みへの恐怖がある。
しかし快感への恐怖も
より大きくミサを不安にしているのだ。
昨日初めて正雄の巨根を入れられ凄い衝撃だった。
実際には痛くもあったが、
どんどん快感の方が湧き上っていた。
それに、さっきは・・・
ヤッ!!
キ、フ、メ、ダ、ッ、ン、ヤ、ダ、ヤ、メ、て!
フル フル

秘肉はべちょべちょになっている。
パンパンに張った鬼頭が小さな割れ目をかき分け、
ニュルン!!っとクリトリスまでこすりあげる!!
『あっ!!』っと声を上げ、ビクン!!と身体を震わせるミサ。
『いやっ!!』
『いや、おじさん、お願いやめて!!』
ミサは快感へ恐怖する。
さっきは恥ずかしい格好で秘部を舐め回され、
気持ちとは裏腹に絶頂してしまった。
それも今まで体験したことのない、
どうしようもない程の凄い快感、深い絶頂だった。
その余韻はまだ続き、身体中が敏感になっている。
特にアソコは怖い程敏感で、
さっき後ろから舐められて震えが止まらない。
今の鬼頭のニュルン!では電流が走った。

『いや、いやっ!! おじさん、やめて! やめて!!』

ミサの反応を見ると嬉しくてたまらない。
挿入の前に鬼頭でオ●コの入り口を擦りいじめるのだ。

満面のにやけ顔で意地悪く責め立てる。
『嫌なのか? これ~!? これ嫌なの~??』

ミサの汁を塗り絡めるように、
鬼頭の先を割れ目に沿わせニュルンニュルンとこすりつける。
その先のクリトリスまで、にゅるにゅるの鬼頭がこすり襲う!!

『あっ! いや~~!!』
『あっ!! あっ!!』
『ミサちゃん、にゅるにゅるぅ~~!!』
『いや~~!! いや~~!! だめ~~!!』

しだいに「にゅるん・にゅるん」が「くちゅ・くちゅ」と卑猥な音を立て始める。
『ミサちゃん、嫌々言って、何！このいやらしい音わ～!!』
『オ◎コくちゅくちゅいってるよお～～～!!』
『グッチョグチョにして感じてんじゃ～～ん!!?』
鬼頭と卑猥な言葉がミサをなぶり弄ぶ。
言葉なじりも得意技の正雄だ。
ミサは羞恥と快感への恐怖に、頭が混乱していく。
『これ、本当に嫌なの～～??』
『おじさんのチン●欲しいんじゃないのか～～!?』
ヒダを、クリをこすり動いていた鬼頭が、
ついに穴に押し込まれる・・・
ズクッ!!
あっ!!
にゅぷぷぅ～～!!・・・にゅぷん!!
小さなヒダを目一杯押し広げ、ぶっとい鬼頭が押し込まれた。
『あっ！
『ああ～～!! いやあ～～!!』

正雄はしばらく鬼頭を咥えさせた状態でミサの狼狽えを楽しむ。
目一杯大口を開けて傘だけ銜え込んだ秘肉がいやらしい・・・・

にゅっぷぅ〜

そして押し込むのではなく。逆に一旦引き抜き抜く。
傘がくさびになって抜くのもきつい!!
にゅ〜っぽ!!

そしてまたあてがうとゆっくり押し込む・・・・
にゅっぷぅ〜・・・・
『あっ!ああ〜〜!! だめ〜〜!!』
にゅぷん!!っと、また亀頭部だけ飲み込む。

少しの痛みはあるが、それよりも快感に狼狽える。
大きな物を咥えさせられ、自分の中を押開かれている。
凄い違和感と共にジーンと快感が湧き上がってくる・・・・

にゅぷぷん!!

正雄はまたゆっくりと引き抜き、
そして押し込んでいく・・・・
にゅっ〜ぽ〜・・・・　にゅぷ〜〜ん!!
『あっ!だめ〜〜〜!!』

だめ〜〜!!